

9/9 防人がたどった 海の道を体験

—特別史跡金田城跡築造1350年記念イベント—



美津島町城山の金田城跡を海から巡るシーカヤックイベントが開催され、防人が通っていたかもしれない海の道をたどって金田城跡へ上陸しました。イベントでは、フォトコンテストも行われ、参加者達はカメラを片手に、築造1350年の歴史ある石積みを見学した後、城山にある二ノ城戸まで登り、防人がたどった金田城跡で対馬の歴史を写真に収めました。

8/21~8/23

若い視点で対馬を考える

—地域創生の現場で課題や現状を学ぶ—

8/31~9/4



『高校生版島おこし実践塾』発表の様子



『平成29年度対馬市島おこし実践塾』みんなでハイッ！チーズ！

8月21日から厳原町の内山・豆敷・久根田舎地区で初となる「高校生版島おこし実践塾」を開催しました。2泊3日の日程で、島内外の高校生が参加。対馬の仕事を実際に体験し、対馬の魅力や課題を話し合いました。また、上県町の志多留・田ノ浜・伊奈地区では8月31日から4泊5日の日程で「平成29年度対馬市島おこし実践塾」を開催しました。全国から集まった大学生・社会人の塾生達は5班に分かれ、対馬の農業・漁業・林業の現状や課題について学び取材した内容を、それぞれの視点で提言プレゼンテーションしました。

6/1 世界も認めた対馬の歌人 日本芸術遺産認定名誉作家に認定



厳原町にお住いの平山三智子さんは、公民館講座をきっかけに短歌を詠み初め、その歌は、国内のみならず、イタリア（小中学校の教科書に掲載）など世界各国でも評価されるとともに、数々の賞を受賞しています。平山さんの今後ますますのご活躍が期待されます。

9/30 1350年の時を超えて 繋がる絆



厳原町の対馬市交流センターで、特別史跡金田城跡築造1350年を記念して「古代史・古代山城リレー講座」を開催しました。講師に、九州歴史資料館の赤司善彦氏を招き「古代山城の築城とその背景」と題して講演が行われました。

9/6 救急現場へ出場せよ！ 「救急の日」模擬出場訓練



厳原町の東横INN対馬厳原で、救急医療週間（9月3日～9日）に合わせて「救急の日」模擬出場訓練が行われました。一日救急隊長に東横INN対馬厳原の谷口典子支配人が、一日司令室長には藤山典子支配人補佐が委嘱され、仮想救急の現場で、救命処置などを体験しました。

祝 白寿 おめでとうございます

福島 笑子さん(上対馬町)大正7年9月4日生まれ

99歳を迎えられた福島さんに市から褒状とお祝い金が贈られました。これからも長生きしてください。

お知らせ 今年も「防災タウンページ」が届きます

NTTタウンページ（株）様のご協力により、防災意識の向上を目的に昨年度から「防災タウンページ」を発行しています。市民の安全と安心を確保するため、災害・防災情報や避難所マップなどの情報をはじめ、安否確認方法や災害への備え、応急手当の方法など、日々の備えから災害発生後のサポートに活用できる内容をまとめています。

10月から11月にかけて「対馬市市民便利帳(市政情報)」が掲載された「対馬市版タウンページ」とともに皆さんのご自宅に届きます。

問い合わせ／総務部 総務課 ☎0920(53)6111



B5判



まちの話

特集

各課からの
お知らせ

対馬振興局からの
お知らせ

わがまち再発見
博物館通信

年金コーナー
消費生活相談所より他

情報BOX

図書館情報
あんよー韓国語

福岡事務所
レポート他

おくやみ
他 市長の動き

特別診療案内
他

フリースペース (適応指導教室)



**居場所がここにある
一緒に歩いてくれる人がいる**

不登校や引きこもりなど何らかの理由で、学校に通うことが困難な子どもたちのために開設された場所をフリースペースと呼びます。

対馬で唯一のフリースペースは、民間有志の協力により2006年にスタートしました。その名は「みちしるべ」。学校生活になじめない人たちやその保護者の心に寄り添い12年目を迎えています。今回の特集ではみちしるべの歩みとその活動を紹介し

フリースペース「みちしるべ」の概要

不登校の児童・生徒の「居場所づくり」のため、厳原町の有志により設立されました。当初は厳原町中村の半井桃水館を拠点にしていたが、入会者の増加などで2010年からは、市の無償貸与により、現在の施設に移転し活動しています。7年前から、適応指導教室としての役割も受け、現在は10人ほどの児童生徒が通い学校や社会への復帰を目指しています。支援者や専門講師による学習会や講座を行う定例活動の他、個別相談や他町への移動フリースペース、島外へ研修に行くなど、一人一人と向き合った様々な活動が展開されています。

ここを巣立った卒業生は45人。高校生・大学生・運転手・介護士・作業療法士・店員・主婦として新たな一歩を踏み出しています。活動費は、生徒の年会費と市の補助金でまかなわれています。

どんな人が入会しているの？

- ・学校に通っていない児童・生徒・青少年
- ・通信制の高校生として学びながら参加

※市内どこからでも参加でき、保護者も共に参加できます。定例活動日は水曜日ですが、それ以外の日も要望があれば、相談や学習会を行っています。参加した日は市教育委員会及び学校の判断で学校出席日として扱われています。



毎週水曜日が定例活動日です 定例活動日（水曜日）のプログラム （13:00～17:00）

活動は子どもたちの自主性を尊重し、自分たちで話し合って決められます。経験豊かで、様々な特技を持つ講師により充実した活動が展開されています。（※顔写真は講師の方々です。）



陶芸でランプシェードづくり



スタッフの立石浩さんは、会の副代表も務めています。この日は手話を指導。プライベートでは、ゴスペルグループも結成し、みちしるべの利用者もステージに立つことがあるそうです。



旧内山分校での手作りラジコングライダー製作



館内には様々な生徒さんの作品が並びます



対馬青年の家の出前講座



生け花講座

このほかにも、写真・音楽・映画・野外体験・草木染め・ピアノコンサート・クリスマス会など盛りだくさんのプログラムは心を癒すとともに、子どもたちの個性を引き出し、将来へのステップアップにつながればと期待されています。島の合唱祭やハロウィンなど地域と交流するイベントに参加している利用者もいます。

「みちしるべ」10周年記念誌から一部を抜粋して紹介します

利用者の声

○中学1年の時、学校に登校しようとする
と気分が悪くなり、吐き気がして学校に
行けなくなりました。不登校は異常と思
っていたので罪悪感からすごく息苦しい
日々を過ごしていました。通信制高校に
入学したことを機にみちしるべに入会し
ました。最初は椅子に座ることも精一杯、
しだいに同じ趣味の仲間に出会い、活動
が楽しくなりました。アルバイトをこな
しながら、みちしるべスタッフさんの手伝い
もできるようになりました。

○保健の先生に紹介していただき入まし
た。みちしるべには語り
相手がいます。不登校
は、自分自身との孤
独な戦いですが、こ
こには同志がいるの
です。この同志にど
れだけ救われたか計
り知れません。

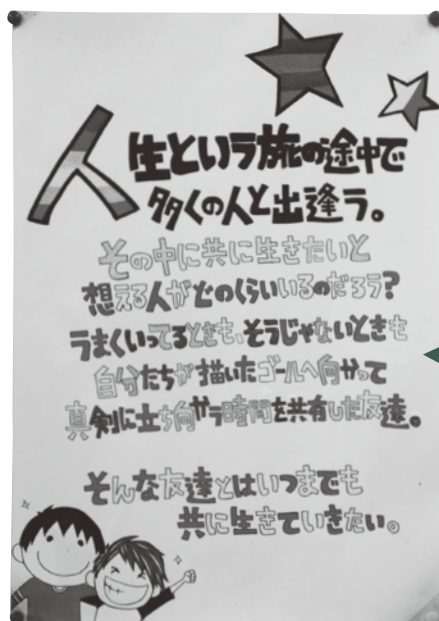
保護者の声

○みちしるべで一番に
言われた言葉は「今
は学校に行かなくて
もいいんですよ。」
一生忘れないと思い
ます。どうしていい
かわからなくなってい
た時、この一言で肩の
荷がすーっととれたような
気持ちでした。

○毎日自分を責め続け、生きていく気力さえな
かった時に出会えた所がみちしるべでした。初め
は参加して時間を過ごすだけだったのが、スタ
ッフの方々の優しい言葉かけや配慮のお蔭で少
しずつ慣れてきて、子どもの表情や私の心が安
らぐ時が増えていきました。安心できる場所が
見つかり、私も生きていいんだ！楽しんでいい
んだ！と教えていただき、たわいもない会話や
出来事の大切さに気付かされました。

○初めて行ったのは中2の時。お母さんと一
緒でしたが、すぐに家に帰りたと思っ
たり、しぶしぶ活動にも参加していました。
でもだんだん自分から「行きたい！」と思
うようになりました。高1の時は「不登校
全国のつどい」にも参加し話をたくさん聞
くことができました。今は高校に通って
います。

○みちしるべで過ごす時間が好きです。いろ
いろな支援者の方が参加して下さるので
感謝しています。自分の考えたことをその
ときすぐに話すことは、今の私にとって難
しいです。でもみちしるべでは少しずつだ
けれど話せるようになった
と思います。支えてく
れる人がいることは幸
せだと感じています。
興味のあることを学
び、色んなことに挑
戦していこうと思
います。



このポスターもイラストが得意な
生徒さんの作品です

支援者の声

○恥ずかしくて人前で
話が出来なかった子
が発表会で司会をし
たり、学習を教え合
ったり、相談に乗っ
てあげたりする姿な
ど生徒さんの成長が一
番の楽しみです。

○若い人たちとの交流が楽し
みで2010年から参加しています。心
が敏感で、優しく、自分の思いを
上手に伝えられなかったり、誤解を
招いたり、そうして内に閉じこも
ったり…。そんな悩みや心配を抱えて
いた、本人、家族の居場所になっ
てきたんだと思います。これから
も一歩一歩、一つ一つ、時には立ち止
まりながら進んでいきましょう。笑
顔と共に。

地域に温かく見守られながら育ってほしい

ここに来ている子どもたちは学校で居場所がないと感じていたり、学校に行くと話すことができなくなったり様々な悩みを抱えています。このみちしるべの部屋に入ることさえ、私たちの想像を超えるエネルギーが必要だったりします。

しかし、支援者や講師の皆さんと触れあっていく中で、頼れる人ができたり、トラブルから立ち直ったり、ここで役に立ちたいと思い始めたりと少しずつ変化が見えています。私たちは、本人が希望しない限りすぐには不登校の原因を追究していません。地域の皆さんにお願いしたいことは、もし町中で昼間に子どもを見かけた時「学校も行かずに何しよる?」と思わないで「何か訳があるのだろう」と温かく見守っていただきたいのです。もしかしたら公の場でふさわしくない格好でいるかもしれませんが。でも責めないでいてほしいのです。どうか「いいところ」を見つけ、自立に向かって頑張っている子どもたちを応援してください。人間関係の濃い島だからこそ、配慮が必要なのではないかと思うのです。

ここに通っている子どもたちは、今は学校に行くのが困難ですが、良い意見や才能を持っています。そこに光をあてていきたい。就職・進学・結婚など12年間で45人がここを卒業し、社会で頑張っています。私たちの一番の願いは、明るい気持ちで自分を肯定してくれること。「みちしるべ」で同じ思いを共感できる仲間に出会い、温かい人間関係に触れ、自分らしく生きていけばいいのだと前を向いてくれることです。心ある支援者の方々とのおふれあいは、子どもたち（利用者）とスタッフの宝です。



活動当初からスタッフを務める
みちしるべ代表 渡辺 久美子さん

フリースペース

みちしるべ

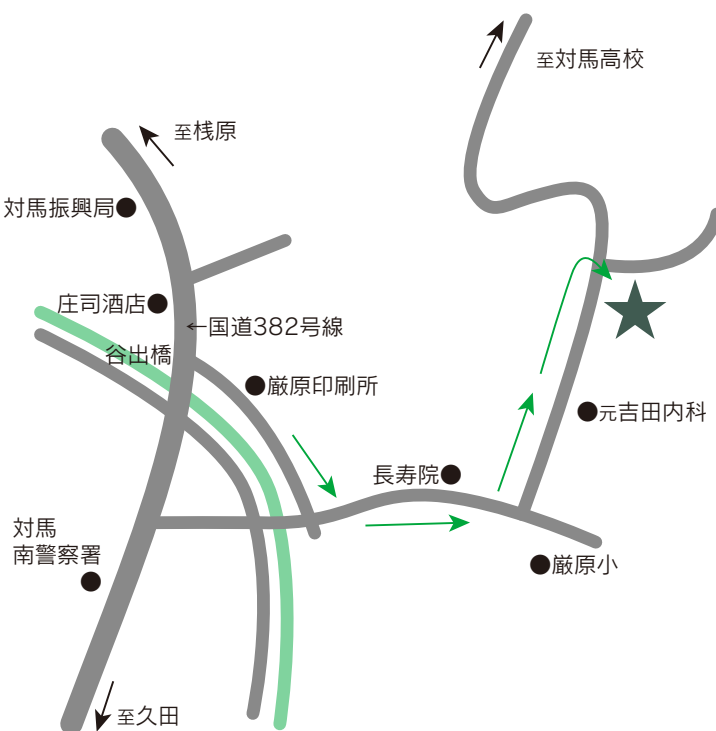
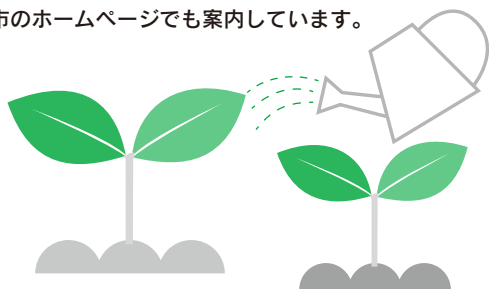
〒817-0012 対馬市厳原町日吉338-1

- ・参加するには入会が必要です。
- ・問い合わせ・見学希望の方

☎090(4512)6426 (渡辺さん)

☎0920(52)4749 (立石さん)

※対馬市のホームページでも案内しています。



そこに行けば…。

そこに行けば、仲間がいる。相談できる。勇気をもらえる。いろんなことを教えてくれる人がいる。

社会は多様な人々の集まりであり、心のあり方も様々です。その名前のおり「みちしるべ」は、利用する人たちの心に寄り添い、行く先を共に探してくれる場所です。学校に復帰したり社会に参加できるようそっと支えてくれる人がそこにいます。